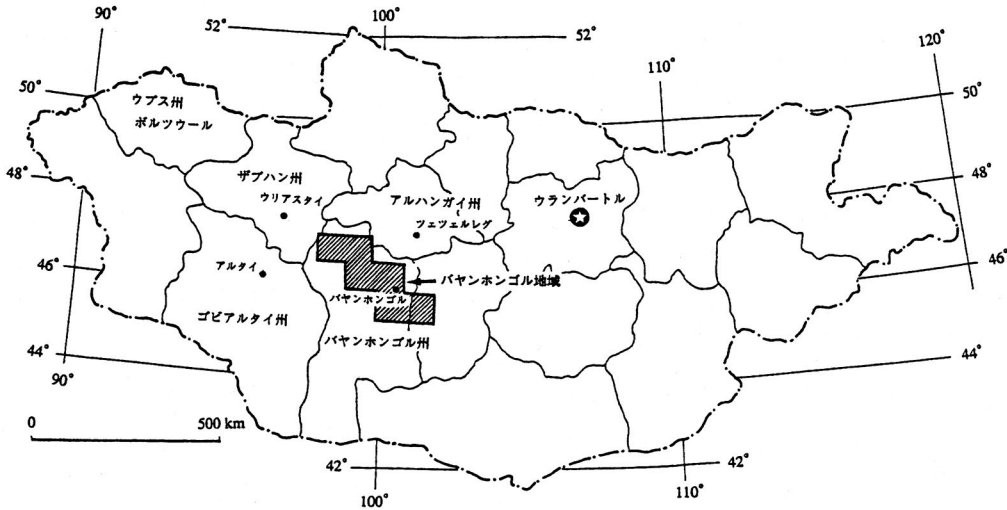


1:200,000 Digital Geological Map of Mongolia  
L-47-XVII

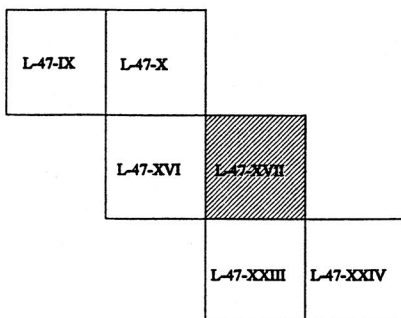
20万分の1モンゴル数値地質図  
L-47-XVII



日本の5万分の1地質図に相当するモンゴルの基本的地質図は20万分の1地質図である。この縮尺の地質図も含め、モンゴルの地質図のごく一部が旧ソ連によって印刷されたことがあるだけでモンゴル国内では過去に地質図が印刷・出版されたことがない。地質調査によって作成された地質図は、手書きの原図が1部存在するだけである。従って、ここに登録された地質図は、数値化された地質図として最初のものであると同時に、カラープリントとして多数の部数が発行されたものとしてもモンゴル最初のものである。

この地質図は、国際協力事業団（JICA）のプロジェクト方式技術協力「モンゴル地質鉱物資源研究所プロジェクト」（1994～1999）の中で、日本の地質調査所とモンゴル地質調査所及びそれに係わる多数の関係者の現地調査、資料収集の努力によって作られたものである。このプロジェクトでは、フィールド調査に係わる技術協力は、モンゴル中部のバヤンホンゴル地域において地質調査と鉱物資源探査を実施する中で行われた。その成果のひとつとしてとりまとめられたのが20万分の1数値化地質図6シートと6シートを総括した50万分の1数値化地質図である。ここに登録されたものはそのうちの1シート（L-47-XVII）である。

L-47-XVII



地質図L-47-XVIIの地域では、沖・洪積層は主としてハンガイ山地南麓の河川に沿って分布する。地域全体に広く分布するのは、先カンブリア紀～古生代二畳紀の堆積岩類、変成岩類、花崗岩類等である。その他、小分布ではあるが、古第三紀の玄武岩類や白亜紀堆積岩が存在する。本地域の中央部には、ザッグ帯の堆積岩類とバヤンホンゴル帯のオフィオライトが北西－南東方向に帯状に分布している。これらの帯の北東側には、ハンガイ帯の古生代中・後期の堆積岩類と花崗岩類が分布する。また、南西側には、ブルドゴル帯堆積岩類とバイドラッグ帯変成岩類及びそれらに貫入する花崗岩類が認められる。地質の詳細については、50万分の1モンゴル数値地質図（バヤンホンゴル地域）を参照。